

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200089		
法人名	有限会社フタバメイト		
事業所名	グループホームさくらぎ庵2階B		
所在地	愛知県大府市桜木町2丁目230番地		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域、医療に密着したグループホームであり各個人の尊厳を守り安全に安心して過ごしていただける施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2394200089-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営母体が医療機関であることで、日常的に医師、看護師による医療面での支援が受けられることがホームの特徴であり、利用者、家族の安心感にもつながっている。利用者の中には重度の方も生活しており、日常的な申し送り等の機会を通じて、職員間で利用者の支援内容を確認しながら、ホームでの生活を継続できるような支援が行われている。医療面での連携を深めながら、利用者の看取りを見据えた支援にも取り組んでいる。利用者が理念にも掲げている「その人らしい」生活を継続することができるように、居室に様々な好みの物を持ち込んだり、日常的におしゃれを楽しむ取り組みが行われている。運営法人は複数の介護事業所を運営しており、関連のデイサービスで行事が行われる際には、ホームからも利用者や参加する機会をつくり、利用者の外出の取り組みにもつながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	平成30年3月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に目の付く場所に掲示しており、その人らしく動けるよう接している。	利用者が「その人らしい」生活を継続することを目指した内容の理念となっており、事務室内に掲示している。職員の出勤時には理念を確認するように目に入りやすい場所に掲示しており、日常的な意識につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩などで挨拶したり花摘みや柿狩りなどをさせて頂き日常的に交流している。	法人代表者が地域住民でもあることで、ホームは地域の方にも知られた存在でもある。近隣の方から柿を分けてもらう等、交流の機会がつけられている。関連のデイサービスの行事の際には、ホームからも参加している。	地域の方との交流の機会を増やす取り組みが継続的なテーマでもある。ホームからの働きかけを継続しながら、地域の方との交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日々の様子や散歩など外出時話掛けていただく事で理解を深めていっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回行われている。また、議事録を回覧し会議内容を共有しサービス向上に活かしている。	会議の際には、複数の地域の方の参加が得られており、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、ホーム母体の医療機関の院長も可能な限り会議に参加しており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が連絡を取り積極的に取り組んでいる。	広域連合や地域包括支援センターとは、不明点の確認等を行いながら、ホームの運営への反映につなげている。また、母体の医療機関の院長が地区の医師会の会長を務めていることで、行政機関とも連携した講習会等への参加、協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束はしないと言う意識持ち利用者に対応しているがやむを得ず玄関や一部の施錠はせざるを得ない。	ホーム内の移動が自由にできることで、職員間で不穏になる利用者にも対応した工夫を行いながら、玄関以外には施錠を行わないように取り組んでいる。また、職員による言葉の拘束等を行わないように、日常的な注意喚起の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士虐待にならないよう声掛けしている。また、慣れによって言葉遣いや口調が強くなるよう職員同士声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が少なく活用できるよう学び支援できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が家族、利用者に対して説明を十分にしている。また、その都度疑問に対し傾聴し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族の意見要望を傾聴し全職員が共有できるよう速やかに対応している。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、法人代表者及びホーム管理者で対応することを明記する取り組みが行われている。また、毎月のホーム便りには、利用者毎の報告も添えられている。	家族との交流会の機会をつくっているが、現状、家族の参加が得られていないことが多い。家族にホームへの理解を深めてもらうためにも、ホームからの継続した家族への働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや日頃から意見を聞く機会があり反映されている。	職員会議をユニット合同で行っている他にも、日常的な申し送りを通じた意見交換の時間をつくりながら、職員からの意見をホームに運営に反映する取り組みが行われている。また、ホーム管理者の他にも、法人代表者も職員と面談する機会をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	やりがいや向上心を持って働けるよう努めているが職員の人数が増えると良いと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各々職員が外部の研修に参加できるよう機会を増やしている。またテキストを回覧しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会や研修に参加できるようにしてくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の訴えに傾聴し自由な生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との会話の中でできるだけ傾聴し思いを汲み取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族、利用者の要望や希望及び情報を念頭に入れ対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者で過ごす時間を蜜にし明るく楽しい生活が出来るよう雰囲気作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との会話から利用者に対する思いを理解し大切にしていこう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方や家族の面会や外出が自由にできるよう支援しているが、なかには接見禁止になっている利用者もいる。	母体の医療機関が近隣にあることで、医療機関への受診を通じて、入居前からの友人、知人と会うことがある。家族の協力も得ながら、行きつけの美容院を継続している方もいる。また、利用者の中には家族と外泊の機会をつくり、一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の交流の為にレクリエーションを行っている。また、自由に1階や2階を歩き来するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者家族が気軽に相談できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望を傾聴し把握に努めている。また、出来ない時は職員同士話し合い方法を検討し支援している。	職員間で利用者を担当しながら意向等の把握につなげており、日常的な申し送り等を通じて、情報の共有につなげている。また、利用者の状況等にも合わせたカンファレンスを実施しており、利用者に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報収集に努めている。また、日々の生活の中の会話などで今までの生活を聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活のリズム心身の様子などをよく観察し把握に努めている。また介護記録や職員同士情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的に担当者会議を実施している。また、職員同士状況に応じて意見やアイデアを出し反映させている。	介護計画を3か月での見直しを行い、状態変化にも合わせた見直しも行われている。モニタリングについても介護計画の見直しに合わせた実施しており、定期的な評価が行われている。また、日常の様子を細かく記録に残す取り組みも行われている。	日常の記録用紙には、利用者の日常の様子が細かく記載されているが、ケアの焦点(項目)を記載しながら、定期的なチェックにつなげる取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を分かりやすく取り職員同士共有できるよう書き方を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者や家族の思いを理解し柔軟にサービスが提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方に来訪頂いている。また、散歩で近隣の方と挨拶を交わしたり花や柿狩りをさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診や歯科往診以外にも利用者家族の希望協力の元かかりつけ医での受診は出来ている。また、専門医での受診時紹介状を書いて頂き受診できるよう支援している。	母体の医療機関の医師による定期的な訪問診療の他にも、利用者の健康状態に合わせた随時の受診等の対応も行われている。また、母体の医療機関の看護師が週2回訪問に訪問しており、利用者の健康チェック等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	何かあれば看護師に連絡報告指示を仰ぎ適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と職員との情報共有を行い家族の相談にも応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療看護からの指示の元職員が協力し合い精一杯の支援をしている。	医療面での柔軟な支援が可能な体制が構築されていることで、ホームには重度の方も生活しており、利用者の看取りを見据えた支援も想定している。利用者の状況等に合わせた家族への説明を行いながら、ホームでの生活を継続できるような支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変事故は経営者でもある医師や看護師に早急に報告し指示を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回水害や火災訓練を実施している。	年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認等が行われている。訓練の際には、消防署職員の立ち合いも行われており、必要な助言等が得られている。備蓄品については、関連事業所の他にもホームでも確保が行われている。	現状、地域の方との協力関係の構築は、ホームの継続したテーマにもなっている。ホームでも支援可能な内容を検討しながら、地域の方との関係作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	家族や外来者利用者の前ではプライバシーに関わる事は話さないようにしている。また個人を尊重した言葉掛けに努めている。	「介護の15か条」を事務室内に掲示しており、ホームの理念と合わせて、職員が日常的に利用者への対応を意識する取り組みが行われている。また、介護の3K「感動、感激、感謝」を掲げており、日常的な注意喚起にもつながる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に個々に合わせた声掛けや表情を見ながら自己決定できるよう支援している。好みややりたい事の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースや体調に合わせ散歩や外出などの支援も行っており出来るだけ利用者の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の意思で自己決定し着ていただき家族と馴染みの美容院に行かれるなど支援している。また訪問美容もあり、自己決定できない利用者は清潔に心掛け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや食器洗いなど力量に合わせ支援している。	食事については、配食業者が調理したおかず類をホームで温めて提供しており、身体状態に合わせたミキサー食等の提供も行われている。月1回以上の頻度で、ホームで食事を作る調理レクを行っており、その際には利用者も参加する機会もつくられている。	以前は行われていた職員も利用者と同じ食事を行う取り組みがなくなっている。外部業者による食事の提供であるため、職員が1名でも食事を行うことに関する検討に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量を記録し状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。また定期的に訪問歯科医や衛生士によるケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	体調の変化や介護度によりその都度検討し適切な対応が出来るよう努めている。	利用者全員の排泄状態の記録を残し、日常的な申し送りを通じた情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。また、排泄に関する医療面での連携も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や体操、水分による運動で改善や看護師との情報共有にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個々に合わせた入浴方法を提供しているが体調により変更している。また曜日や時間帯は固定せざるを得ない。	利用者は週2回以上入浴しており、入浴回数や時間等にも対応する取り組みも行われている。特殊浴槽の設置が行われていることで、重度の方の入浴にも対応している。また、入浴剤を入れたり、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動状況をみながら個々の体調に合わせて休息が取れるよう支援している。また、照明や室温に配慮し安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	指示通り服薬している。また体調の変化を見逃さず看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	関心事や興味を示す事柄を把握し好みに合わせて楽しんで頂くよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ほぼ毎日散歩に出かけている。また家族や職員と喫茶店や買い物に出かけるよう支援している。	日常的に外出する機会をつくっており、ホーム周辺への散歩をはじめ、関連のデイサービスの行事への参加を通じた外出支援も行われている。また、外食や季節等に合わせた外出行事が行われており、花見や紅葉等への外出の機会がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	物盗られなどトラブルの原因になる為事務所にて管理している。また、外出時や必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話が掛けれたり手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と飾り等をその都度一緒に作成し季節を感じられる空間を作る工夫をしている。また空調で調節し心地良く過ごせるよう努めている。	ホームのリビングは広い空間が確保されてあることで、利用者が日常生活をゆったりとした気分で過ごすことができる。また、リビングの壁面には、利用者の作品や行事等の様子を写した写真等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースでは一人になる事は難しいが気の合う方との会話が弾むよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族が使い慣れた物や飾り等持ち込んで下さり居心地良く過ごせるよう努めているが、入居時新しい物を購入される方が多い。	居室には、利用者、家族の意向にも合わせた持ち込みが行われており、利用者の中には、入居前からの様々な家具類の持ち込みが行われている。また、利用者自身や家族の写真を飾ったり、好みの化粧品等を置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室やトイレなど表札や名札を手作りし分かりやすく混乱せず安全な生活が送れるよう工夫している。		